

令和5年度 校内実践報告会

知的障害の状況や程度に応じた指導 の在り方研究についての報告

令和6年2月14日(水)

「在り方研」について

【知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方研究】

○目的

知的障害特別支援学校の小・中学部の教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方、普通学級における自立活動の考え方を整理し、知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方を示す。

「在り方研」について

「在り方研」について

【知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方研究】

○具体的な取組

- ・都立知的特別支援学校における、各教科等の内容や設定する授業時数の根拠を明らかにしながら、教科指導と各教科等を合わせた指導の関係や考え方を整理する。
- ・各教科等を合わせた指導については、カリキュラム・マネジメントの考え方に基づき、設定の理由を明らかにしながら単元を構成できるようにする。
- ・知的障害特別支援学校の普通学級における自立活動の指導の在り方を検討する。

「在り方研」について

「在り方研」について

【知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方研究】

○研究指定校

あきる野学園
八王子西特別支援学校
久我山青光学園
高島特別支援学校
多摩桜の丘学園

どの学校も他の学校に先駆けて
教科「生活」「社会」「理科」を設定

「在り方研」について

「在り方研」について

【知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方研究】

- 今年度の研究の方向性
 - ①「生活」の指導内容・方法の充実と配当時数の妥当性を検証
 - ②「社会」「理科」の指導内容と指導時数の目安の作成
 - ③低学年での「生活」の指導、重度・重複学級に在籍する児童・生徒への教科別の指導の検討



児童・生徒が効果的に学ぶことができる教育課程の編成に向けた方向性を整理する。

「在り方研」について

令和5年度 校内実践報告会

令和5年度 第3回知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方検討委員会

今年度の本校の取り組みと 次年度の研究計画について

令和6年2月1日（木）
東京都立高島特別支援学校

令和5年度 第3回知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方検討委員会
今年度の本校の取り組みと次年度の研究計画について

【今年度の本校の取り組み】

- 1 教科「生活」について
- 2 単元配列表について

【次年度の研究計画】

- 3 令和6年度研究について
- 4 教科「社会」「理科」の設定準備
- 5 次年度の研究について教科「生活」「社会」「理科」

1 教科「生活」について (1) 教科「生活」の設定

- 令和5年度より
小学部5年生、6年生において教科「生活」を設定している。
- 週1時間の実施
各教科等を合わせた指導の中で取り組む学習内容と教科の中で取り組む内容を調整しながら実施している。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (2) 授業実践

○小学部5学年「たかしまラボ～ゴムを使ったおもちゃ作り～」

本時のねらい

学習指導要領【シものの仕組みと働き】
【中学部における理科につながる内容】

- (1) 本で行う学習活動を知り、学習への期待感をもつ。
- (2) ゴムを使ったおもちゃに関心をもつ。
- (3) ゴムをつけることによって、物が動くことが分かる。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (2) 授業実践について

○小学部6学年「つくってあそぼう 風で走る車」

本時のねらい

学習指導要領【シものの仕組みと働き】
【中学部における理科につながる内容】

- (1) 風の力によって物が動く様子に関心をもつ。
- (2) 風の力は物を動かす力があることに気付く。
- (3) 風の大きさを変えると、物が動く様子も変わることに気付く。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

○小学部第5学年、第6学年の教科「生活」の実施状況について
中学部における社会につながる内容（以下【社会】とする）と中学部における理科につながる内容（以下【理科】とする）の時数を分析した。

小学部第5学年

小学部第6学年

社会 : 17時間

社会 : 13時間

理科 : 18時間

理科 : 22時間

※時数には2月以降実施予定のものも含まれる。

小学部第5学年は前年度作成の年間指導計画に沿って実施、小学部第6学年は前年度作成の年間指導計画に基づき、学年の状況や行事等も踏まえ一部修正し、今年度の計画を作成、実施しているため、社会、理科の授業時数に差がある。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

小学部第5学年、第6学年の教科「生活」実施状況

- ①小学部第5学年、第6学年ともに「コ家族・親戚・近所の人」は授業での取り扱いが難しく、意図的に取り扱っていない。

【理由】ア：各家庭で家族構成が異なる

イ：個人情報をごに取扱いすることになってしまう

各教科等を合わせた指導の中で「お手伝い」「家族の一員としての意識」などを取扱い機会があり、その中で取り組んでいる。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

小学部第5学年、第6学年の教科「生活」の実施状況

②小学部第5学年、第6学年ともに「シ物と重さ」を取り扱っていない

→現在、教科「生活」で実施することができていない状況であるが、今後実施できる内容等を検討中である。

各教科等を合わせた指導の中で、例えば「物を運ぶ」などの活動において【重い】【軽い】などを学ぶ機会を設定し、取り組んでいる。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

③授業内容について

「コサシ」に限定して授業ができるが良い

「コ 社会の仕組みと公共施設」「サ 生命・自然」「シ ものの仕組みと働き」

ア：「コサシ」に限定することで、教科「生活」としてねらいを明確にしやすい。

イ：授業内容や活動も考えやすく、実施しやすい。

ウ：「生活単元学習」とのねらいや活動との違いが分かりやすい。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

④時数について

単元により「各教科等を合わせた指導に関連して学習を展開することで教科「生活」は週1時間の実施が妥当

ア：公共施設の利用などの校外活動や植物の栽培など週1時間では難しい単元もある。

イ：生活単元学習や日常生活の指導などの各教科等を合わせた指導と関連づけて実施している。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (3) 教科「生活」を実施してみても

【コサシの内容に特化した教科「生活」】と【各教科等を合わせた指導】とで、教科「生活」の学習内容を網羅していくと良い。

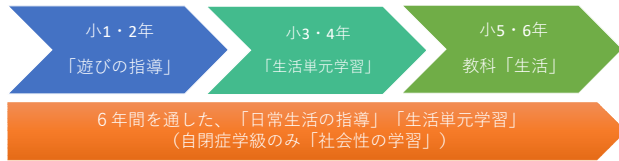
 **教科「生活」は1単位時間が妥当であると考えられる。**

栽培や校外活動など内容によっては2単位時間のほうが良いものもあるが、効果的な指導を行うために、「各教科等を合わせた指導（生活単元学習）」などで取り扱う内容を整理して、今後も1単位時間で実施していくことが望ましい。

1教科「生活」

1 教科「生活」について (4) 今後の検討事項 (令和6年度以降)

- ① 週1時間 (年間35時間) の設定で検討していく
- ② 「各教科等を合わせた指導」と教科「生活」の設定案 (内容検討)



今年度の実施状況を踏まえ、目標や内容を検討・整理中である。

1 教科「生活」

2 単元配列表について

(主に各教科、合わせた指導は次年度)

【単元配列表を作成】

各教科・生活単元学習の単元配列表を作成する
系統性・連続性を担保する
* 学習指導要領記載の内容と単元を対応させる

【生活科の単元配列表作成】

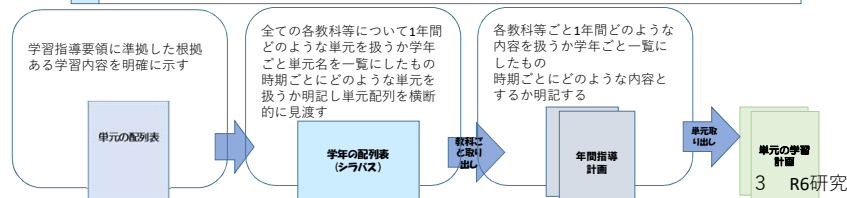
小学部第1学年～小学部第6学年の生活単元学習および、教科「生活」の中で、学習指導要領 教科「生活」の「コサシ」の指導内容に該当する単元を抽出し、各段階の指導目標に照らし合わせながら配置した。

2 単元配列表

3 令和6年度の研究について 「学びにつながるカリキュラム・マネジメント」

「育成を目指す資質・能力」を子供に育むために、資質・能力を3つの柱で整理し、カリキュラム・マネジメントを通してその育成の実現をめざす。

3年目
3年間の計画の3年目、教科と各教科等を合わせた指導の「単元」を主な単位とした系統性の確立・関連性の整理、本校における単元配列表の構築と年間指導計画の作成、単元の学習計画を立案する。



単元配列表

- 各教科等
 - ①学習指導要領を基にした順序性のある単元の配列
 - ②単元の配列について系統性及び関連性の検討
 - ③教科間の関連性 (教科横断的な視点での検討)
 - ④単元配列表の構築→指導の連続性

□各教科等を合わせた指導

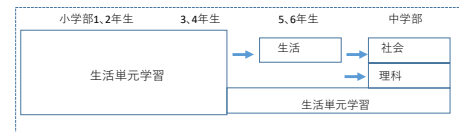
教科と各教科等を合わせた指導の単元を主な単位とした関連性、系統性を検討 (教科横断的な視点での検討)

◆各教科等「生活」「社会」「理科」と「生活単元学習」

各教科等合わせた指導 (生活単元学習) では、構成する教科の配列と関連性を検討

「教科」の学習内容と「各教科等を合わせた指導」を系統・関連付け計画する。

「教科」の学習内容の検討を通して「各教科等を合わせた指導」の学習内容を整理する。



3 R6研究

4 教科「社会」「理科」の設定準備 令和6年度より中学部において教科「社会」「理科」を設定

- ア：「社会／理科」として年間35時間で設定。
イ：「社会」は、自立と社会参加につながる単元、身近な公共施設等の見学や利用、調査を通して学ぶ単元を設定予定である。
ウ：「理科」は、季節や天気に関連した単元、観察や実験を通して学ぶ単元を設定予定である。

 **学習内容や年間指導計画について検討している。**

4 教科「社会」「理科」

4 教科「社会」「理科」の設定準備

- (1) 各教科等を合わせた指導においては状態や経験に応じて各教科等の具体的指導内容を設定し適切な授業時数にする。
- (2) 内容の相互の関連性や系統性について検討する。
- (3) 各教科等を合わせた指導について適切な単元設定を行い、各教科の関連性と、どの単元でどの内容をどのように取り扱うことが有効かなどを検討し整理する。

(学ぶべき内容の教科別の指導と各教科等を合わせた指導との振り分け)

4 教科「社会」「理科」

5 次年度の研究について 教科「生活」「社会」「理科」

- (1) 学習指導要領に則り、本校の実態や地域の特性などから開発した単元配列表を基に、年間指導計画、単元の学習計画を作成して、授業実践を通して計画の妥当性を検証する。
- (2) 授業実践を通して、児童・生徒の学びの様子を具体的に捉え記録することで、実証していく。
- (3) 計画の妥当性の検証と、授業力向上のための授業研究のバランスを取りながら、研究計画を作成する。

研究成果が他校の指導の在り方研究及びカリキュラム等の改善に資するよう知見を蓄積し整理する。

5 次年度の研究